

表現文化学科ってどんな学科？

「生きるための学び」を支える 実感教育・実践教育プログラム

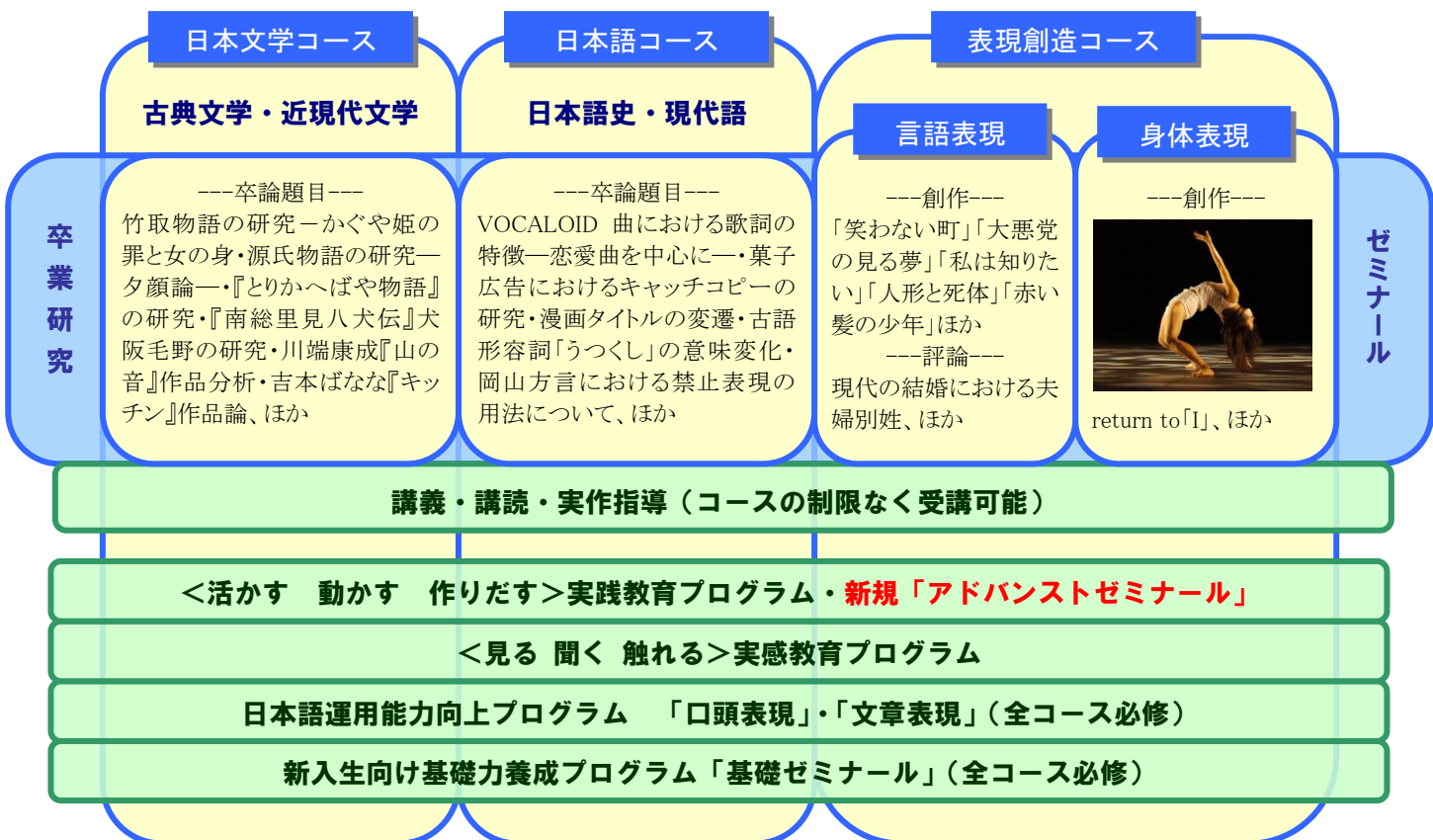
- 人の意思や感情、想像力は文字・声・身振りなどの形で表され、コウカン（交換／交感／交歓）されます。
- 表現文化学科では、実感・実践に軸足を置いて、**日本の言語と文化**を多角的に分析する能力、的確に発信する能力を修得します。これによって、絶えず変化する現在を見きわめ、主体的に未来を切り拓くことができます。
- 「就職活動のための勉強」ではなく「生きるための学び」を選びませんか。「生きるための学び」は、就職活動を、職場をしなやかに乗り切る力も与えてくれます。



在学生・卒業生の活躍ぶりも掲載！

本学ホームページも御覧ください。
<http://www.shujitsu.ac.jp/>

ゆるやかなコース制



研修旅行（新入生対象）

奈良や京都を訪れ、寺社の文化遺産や博物館を見学して「本物」に触れます。

2018年度は法隆寺を拝観し、奈良国立博物館で春日大社のすばらしい寺宝の数々に目を奪われました。



学外研修（新入生対象）

少人数クラスで古典芸能・現代劇・映画等を鑑賞します。

文学散歩

郷土の風土・文化を知るためのバス小旅行です。2017年度は大山を訪れ、志賀直哉の名作「暗夜行路」の舞台を巡り、大山寺・大神山神社を参詣しました。



実地調査（授業科目）

2017年度は熊野三山に参詣。平安後期に上皇が参詣したのと同様に、本宮、新宮、那智の順で参詣しました。本宮から新宮へは川舟を用い、川面から両側の急峻な山々を見上げました。

学術講演会（表現文化学会主催）

これまで、ねじめ正一氏（詩人・作家）、清水義範氏（作家）、三遊亭金時氏（落語家）、今井勉氏（琵琶奏者）、片山伸吾氏（能楽師）、備中神楽の北山社などをお招きしました。写真は2015年度、詩人の伊藤比呂美氏。



「人と出会う」企画

実感教育プログラムの一環として、「人と出会う」を始めました。第一線で活躍する人と出会う機会を提供します。

2017年度は、大河内智之氏（和歌山県立博物館）を訪ね、バリアフリーを含む、県民目線に立った博物館事業改善の取り組みについて聴きました。また、学生が「表現文化だより」の取材インタビューを行いました。



実感教育・実践教育を支える教員の学術研究・社会活動



松本潤一郎

フランス現代思想・欧米圏批評理論を専門とする。共著書に『ドゥルーズ——生成変化のサブマリン』他多数。フェリックス・ガタリ『リトルネロ』（共訳）／ベルナール・ラマルシュ＝ヴァデル『すべては壊れる』（共訳）など翻訳書も多数。



岩田美穂

専門は日本語史。現在は、中央語の歴史だけでなく方言の観点からも日本語の変化について研究している。特に九州方言調査のフィールドワークに取り組んでいる。

岡本悦子

専門は舞踊教育。「晴れの国岡山国体」開会式演出の主力メンバーで、ももっち体操の振付も。2010年岡山国民文化祭洋舞フェスティバル作品を制作統括。岡山県現代舞踊連盟顧問。岡山県女子体育連盟会長。「第5回岡山芸術文化賞功労賞」受賞。



中西 裕

専門は情報学・情報教育。「ICT・伝統楽器・動きを用いた重度重複障害児のための音楽教育」（科研費）の共同研究者として、音楽教育にテクノロジーを応用する研究を行っている。また、倉敷考古館との連携事業として同館の収蔵品データベースの構築にも取り組んでいる。

川崎剛志

国文学研究資料館文献資料調査員として、これまでに正宗文庫（備前市）、真福寺大須文庫（名古屋）等の調査に携わる。また「中世顕密寺院における役行者伝の包摂と正統化についての研究」（科研費）の代表をつとめる。



浅利尚民

永年、林原美術館の学芸員として、岡山藩主池田家旧蔵の大名道具の研究と展示を行う。また、石谷家文書の研究（2015、吉川弘文館）は、戦国史を塗り替える可能性ありと評判に。



入試に関する問合せ先（入試広報事務局）

電話：086-271-8118 メール：nyushi@shujitsu.ac.jp